

広報広聴委員会 行政視察報告

中津市議会議員 大塚正俊

1. 京都市会 (8/9)

テーマ：①市民参加の取り組みについて

①市民参加の取り組みについて

京都市会では、「見える市会、伝わる市会」を目指して、各種取り組みを進めており、その一つが「親子ふれあい議場見学会」と「子ども議場見学」です。次代を担う子どもたちと保護者に、市会及び市政に興味や関心を持っていただくことを目的に取り組まれています。

「親子ふれあい議場見学会」は、小学4～6年生の児童とその保護者を対象に、年1回（午前・午後の2回、90分コース）実施し、令和3年度は抽選で38組86人の参加でした。（申込59組、1192人）

親子で議場見学をすることで議会や市政に関心を持っていただくことはとても有意義で、中津市でもすぐにできる取り組みとして実施を検討したい。さらに、商工会議所青年部やJC、PTA連合会など若者を対象とした見学会の実施により、新人議員の発掘にも活用できると考えます。

「子ども議場見学」は、小学4～6年生の児童、中学生を対象に、随時（1～2時間コース）実施し、令和3年度は8学校152人の参加でした。平成30年度は29学校411人の参加があり、コロナ感染拡大の影響で減少してきています。市内の276小・中学校68、322人と比較すると参加比率はごく僅かであり、市会に近い学校からの参加となっているとのことです。交通機関が発達している京都市にあっても、授業時間の確保と交通費の負担が課題となっています。

中津市では、豊田小学校の6年生（2クラス70名程度）が社会科の授業の一環で毎年議会見学に来ますが、その他の学校からの見学はありません。議会が交通費を負担してでも、ぜひこの取り組みを広げて行きたいと考えます。

また、見学会の内容も子ども達がワクワクする設定となっており、見学会のあり方も兼とする必要があります。

土地家屋調査士会京都支部から寄贈された「バーチャル議場見学」では、議場の様子がバーチャルで見学できるようになっており、ホームページでも見学できます。ぜひ、中津市議会でもこのような取り組みができないか検討していきたいと思います。

このような見学会を通じて、子ども達や若者に議会に関心を持っていただき、新人議員の発掘につなげられるよう、委員会で検討していきたいと考えます。

2. 守口市議会 (8/10)

テーマ：①議会だよりについて

②市民参加の取り組みについて

①議会だよりについて

議会に広報広聴委員会は設置されていませんが、議会改革推進委員会や議会運営委員会、各派代表者会議で広報広聴のあり方について論議し、市報の掲載方法、内容等について決定しています。年5回作成する議会報は、議会事務局職員が原稿からすべてを作成し、各議員との調整、議長・副議長の了承を得て発行しています。中津市では、一般質問や代表質問の原稿を議員が作成し、構成の決定や校正を広報広聴委員会で実施しており、議員の責務としてこの方式は継続していく必要があると考えます。

議会報は、「見やすさ、小・中学生でも読んでいただける紙面」をモットーに、文字ばかりにならないように写真等を挿入し、ゆとりのあるレイアウトに仕上がっています。全ページがフルカラーで、読みたくなる紙面となっており、紙面の全面リニューアルを検討していく必要があります。

議会報の「定例会の概要」では、議案内容、審議内容、議決結果、反対意見が掲載されています。各常任委員会の委員長報告原稿のなかから、市民生活に直結する議決事項を選定し、審議内容を掲載しています。中津市では議決事項だけ掲載していますが、「議会でのどんな審議が行われたのか」を分かりやすく市民に伝えるため、審議内容（賛成・反対意見を掲載）を掲載すべきと考えます。

議員別採決結果一覧については、すべての議案の表決を掲載しています。紙面の都合で中津市では賛否の分かれた議案のみ掲載していますが、請願、意見書、決議等の議員提出議案を除外しており、「議員の主義・主張の見える化」を図るため、これらの議案についても採決結果を掲載すべきと考えます。

表紙の写真については、年度ごとにテーマ（友好都市の風景、道路整備状況、マスコットキャラクター「もり吉」くんによる議会紹介など）を決めています。手に取って見たいくなる議会報にしていくために、写真の選定方法について委員会で検討していきたいと考えます。

②市民参加の取り組みについて

議会として議会報告会や意見交換会は実施していませんが、平成27年度より市内の団体が中学生による「子ども議会」を開催しています。子ども達が議場で一般質問し、執行部が答弁するという形式で取り組まれ、議会事務局職員が事前学習の手伝いを行っています。

実施主体は違いますが、議会や市政に関心を持ってもらうための手法として、中学生・高校生・短大生・一般市民による「模擬議会」の取り組みを検討してはどうかと考えます。

3. 視察を終えての感想、その他意見

今回の行政視察を踏まえ、広報広聴委員会として見直しをすべき項目を洗い出し、議会基本条例の検証に反映していく必要があります。